

これからの時代と和菓子

甘楽町立甘楽中学校

三年 山口 啓太

私はある日、一つの不安を覚えました。「もしかしたら、和菓子屋という職業は無くなってしまうのかもしれない。」なぜなら、日本の伝統産業の担い手が不足している、とニュースで知ったからです。私の両親は、和菓子屋を営んでいます。私も将来的には家業を継ごうと思っております。そこで、今からできることはないか、と考えた時に思ったのがこの和菓子のことからについてです。この激動の時代を和菓子屋はどのようにして生き残ればいいのか、伝統をどう継承していけばいいのかを私は考えることにしました。

現在、少子高齢化に伴い伝統産業の担い手不足が深刻になっています。和菓子屋だけでも、直近二十年で百万社以上も減少しているというデータもありま

す。このままでは減少の一途をたどるだけのように思われます。ただでさえ、ピンチなこの業界。そこに、AIという人間に変わって仕事をする技術が台頭してきました。このままでは和菓子という日本の誇るべき産業は衰退していくだけ、と思うと同時に、私は、このAIの台頭をチャンスと考えます。AIに、基本的な事務作業やデータ処理、簡単な接客や機械の運転などは奪われてしまいきます。しかし、和菓子などの伝統産業はどうでしょう。職人の熟練した技術が織りなす美しさ、これは奪われることはありません。また、日本人には元来、受け継いできた感性があります。豊かな自然や季節の移ろい、そこに調和した侘び寂びの世界。それを、菓子として表現するのが和菓子屋の使命です。古来から受け継がれてきたこの感性を、果たしてAIは表現することができますでしょうか。これからの時代は、人が創った、ということに価値が生まれてくるのではないのでしょうか。私は、それが人々のニーズだと考えます。つまり、伝統産業はピンチでありながらも大きなチャンスを秘めている業界であるのです。

日本の誇る伝統産業をどう残していけばいいのか。そのためには、SNSを利用して情報発信をしておくことも必要と考えます。先ほども言った通り、現在の課題としては担い手不足が最も大きいでしょう。興味を持ってもらわなくては、伝統を受け継ぐことはできません。また、若者の「和菓子離れ」も課題です。これは、私が身をもって体感しているものです。以前は、当店の顧客は多くが中年、高年層でした。時々しか十代、二十代の方が来店することはありません。このような現状を打破すべく、SNSを活用し、練り切りや季節の干菓子の造形美を写真を添えて発信する取り組みを始めたところ、若い世代の方が来店するようになったのです。甘楽町の観光客増加と情報発信が相まって、この取り組みは大きな効果をもたらしました。そして思いました、これは和菓子を残していくための大きな「チャンス」だと。しかし、業界全体として、その良さを最大限に伝えることが出来ていないように感じます。若者に良さを伝えるためには、情報発信がもっとも効果的です。多くの人に「和菓子って美しいな」「食べてみたいな」と思っ

てもらおう、つまり多くの人の心を動かすことが和菓子という伝統を残していくために必要なことなのです。

このように、伝統産業も佳境を迎えています。残していくためには、従来の良さを残していくだけではなく、時代とニーズに合わせることも必要です。私は、日本の誇るべき和菓子、文化をこれからの時代に残して、さらに発展させたいと思っています。ただ、そのためには、従来の良さにプラスして、挑戦をしていかなくتهはいけません。そこで、みなさんにも、日本の伝統産業について興味を持ってほしいのです。そうやって日本の文化を残していきたいという風潮や願いの輪が広がっていけば嬉しい、そう思っております。

伝統もまた、時代に合わせて少しずつ変化していくものであつていいと思います。ただ、伝統そのものを途絶えさせることは、あつてはならない。

みなさんも日本の伝統産業や文化の継承について、考えてみてはいかがですか？